

# 授業改善プラン

教科（ 英語 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するものは**太字**

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	語彙力を向上させるために、同じ語彙を繰り返し練習できる形式の練習やテストを授業冒頭に実施する。	○語彙や口語表現上のバリエーションは大幅に増えた。 ▼単語は書けるが、どのように使用すればよいかわからない、という声が複数挙がる。 ▼文法の定着が十分でなく、単元テストにおける点数が伸びない。	・単なる日本語を英訳するのではなく、文中で語彙が使用されている例を提示する。 ・ターゲットの文法に特化した口語表現や <b>すららを活用して問題演習の機会を増やす</b> 。		
	思考力・判断力 表現力	基本文をインプットし、自分なりの表現に一部変更させる活動を取り入れる。	○知識を十分にインプットさせたことで、自分のことを表現する幅が広がった。学年の半数以上の生徒が、限られた時間の中で自分のことについて10文以上話したり書いたりすることができる。	・今後学習する文法事項においても、表現活動に結び付くよう、授業を構成していく。		
	主体的に学習に 取り組む態度	覚える語彙数や基本文の数の目標を生徒自身が設定し、目標に向かわせる意識を高め、取組の振り返りを毎時間行う。	○個々の学習状況に合わせ、進んで目標を設定し、学習に取り組む姿が見られる。 ▼振り返りの記入が曖昧な生徒が複数見られる。	・何が良かったか、どうすれば改善するかを具体的に表現させる。また、互いの良かった点や改善策について情報共有を行う。		
2 年 生	知識・技能	語彙力を向上させるために、同じ語彙を繰り返し練習できる形式の練習やテストを授業冒頭に実施する。	○語彙力が伸びる生徒が増えている。 ▼生徒によって取組に差がある。 ▼文法の定着が十分でなく、単元テストにおける点数が伸びない。	・発音と文字を一致させ、書くだけの活動に終始しないようにする。 ・ターゲットの文法に特化した口語表現や <b>すららを活用して問題演習の機会を増やす</b> 。		

# 授業改善プラン

教科（ 英語 ）

	思考力・判断力 表現力	基本文をインプットし、自分なりの表現に一部変更させる活動を取り入れる。	○身近なテーマについて即興で話したり書いたりできる生徒の数が増えている。 ▼短期記憶でなく、長期記憶にまで結びついているか不透明である。	・異なる題材を扱っていても、既習表現を繰り返し使用する場面設定を行う工夫をする。	
	主体的に学習に 取り組む態度	身近なテーマや興味関心が高まるテーマを設定し、言語活動の意味を実感しながら学習に向かわせられるようにする。	○設定したテーマに興味関心を示し、楽しみながら学習をする生徒の姿が見られる。	・生徒とのコミュニケーションを図り、引き続き興味関心のあるテーマ設定ができるよう情報収集を重ねる。	
3 年 生	知識・技能	語彙力を向上させるために、同じ語彙を繰り返し練習できる形式の練習やテストを授業冒頭に実施する。	○語彙力が伸びる生徒が増えている。 ▼生徒によって取組に差がある。 ▼文法の定着が十分でなく、単元テストにおける点数が伸びない。	・発音と文字を一致させ、書くだけの活動に終始しないようにする。 ・ターゲットの文法に特化した口語表現や <b>すららを活用して問題演習の機会を増やす</b> 。	
	思考力・判断力 表現力	基本文をインプットし、自分なりの表現に一部変更させる活動を取り入れる。	○身近なテーマについて即興で話したり書いたりできる生徒の数が増えている。 ▼短期記憶でなく、長期記憶にまで結びついているか不透明である。	・上級学校進学に向けた準備を進める中で、既習内容を繰り返し使用する場面設定を行う。	
	主体的に学習に 取り組む態度	身近なテーマや興味関心が高まるテーマを設定し、言語活動の意味を実感しながら学習に向かわせられるようにする。	○設定したテーマに興味関心を示し、楽しみながら学習をする生徒の姿が見られる。	・個人やペアでの表現活動に長けたクラスであるため、強みを生かせるような言語活動を引き続き設定する。	

カリキュラムマネジメントの視点から  
小学校や前年度までの学習内容を把握し、つながりを意識した指導計画を作成する。